

平成15年7月1日

(第56号)

鵜戸

暑中お見舞い申し上げます

鵜戸神宮ホームページ <http://www.m-surf.ne.jp/~udo/>

発行者兼編集者
鵜戸神宮社務所

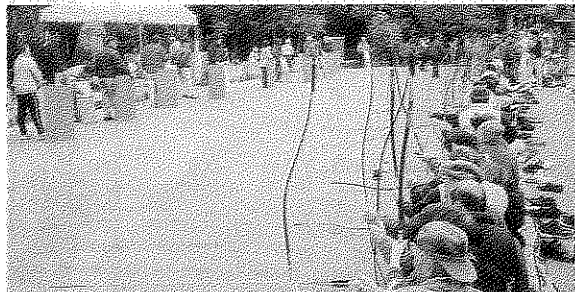


舞楽 納曾利

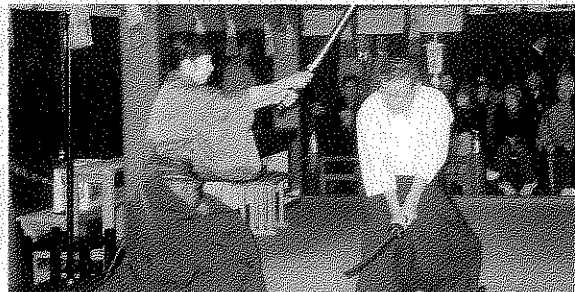
二月一日は生憎の雨となつたが、責任役員、氏子総代をはじめ県内外の神社関係者、崇敬者の参列を賜り、午前十時三十分より例祭が厳粛かつ盛大裡に斎行された。

奉祝行事として二月二日

二月四日には、第三十一回鵜戸神宮奉納四半の大会が、儀式殿前広場にて開催され四十七チーム、二百二十五名が参加。四時半先にある的に神経を集中させ弓を射っていた。



第31回鵜戸神宮奉納四半の大会



福岡藩伝柳生新影流兵法



二月十七日午前十時三十分より、今年の五穀豊穡と国家の安泰を祈る祈年祭が厳粛に斎行された。当日は晴天に恵まれ、農業関係者等多数の参列を賜り、宮司以下祭員によって奉仕された。「浦安の舞」

が奉奏された後、参列者が玉串を捧げ、実り多き年となるよう祈念した。本来わが国の文化は、米を中心とする農耕文化を基盤としており、この祭典は古くより行われてきた重要な祭である。

祈年祭 齋行

神奈備の山



宮司杉田秀清

神々の鎮座する山々や、森のことを神奈備の山といいますが。そこは私共が暮らす日常の生活空間とは異なっており、神々のうしはきまします。神聖なる山や森をさして

天皇・皇后両陛下には、

今年五月、千葉県において行われました全国植樹祭に於いて「現在、幅広い国民の参加を得て森林づくりが進みつつあることは、喜ばしいことでもあります」とのお言葉を述べられました。引き続き、天皇陛下には「慎」の苗木を、皇后陛下には「椿」をお手植されました。来年は宮崎県西都市を中心として植樹祭が行われる予定であります。

さて、五年前の平成十年は鵜戸地方は雨の多い年でした。

平成十年六月九日降り出した雨は連続雨量二百三十ミリに達し、日南市風田から宮崎市折生迫まで、国道二百二十号線は通行止めとなっていました。

雨はさらに降り続き、その夜九時頃境内地の二部、千鳥橋の上部五十メートル程から崩壊。土砂が流出し千鳥橋の欄干を壊し、参道がふさがれ参拝できなくなりました。搬出すべき土砂は五千五百立方メートル、トラック千台分、早急に復旧すべきことは勿論でした。

眼下は断崖で、奇岩怪礁が連なり波が打ち寄せる名勝地で、太平洋の大海原が広がっています。また伊勢エビ、アワビの好漁場でもあります。森の整備が海の清浄さを保つことは明らか

で、この好漁場を維持することは絶対条件でした。

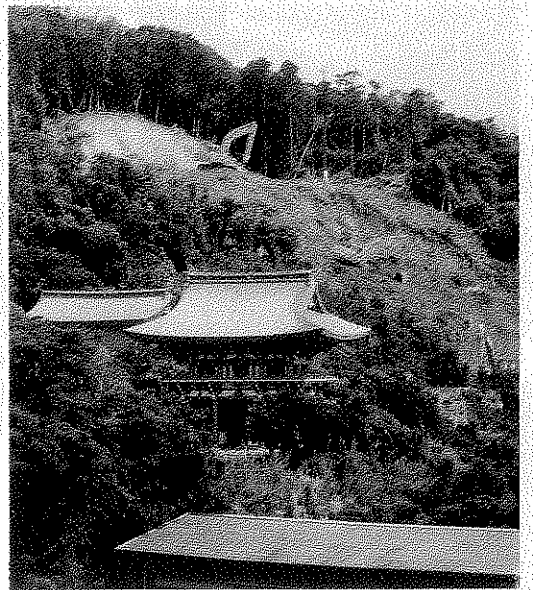
まさに「山は海の恋人」で、森を育てることが、海を守ることでした。そして、いち早く打ち出された緑化の方針は、この天下の名勝といわれる鵜戸の自然景観と、復旧とを調和させることとであり、元の森に戻そうとする努力でした。ハマヒサカキ、クロマツ、シャリンバイが植えられ、下地に鵜戸に自生しているツワブキなどが植栽されました。

現在、松は約四メートルの高さに達し、大地に根を張り、五月にはシャリンバイの白い花が一面に咲きましました。ツワブキは一面に育ち、足を踏み入れることが出来ない程、豊かな神奈備の森となりつつあります。

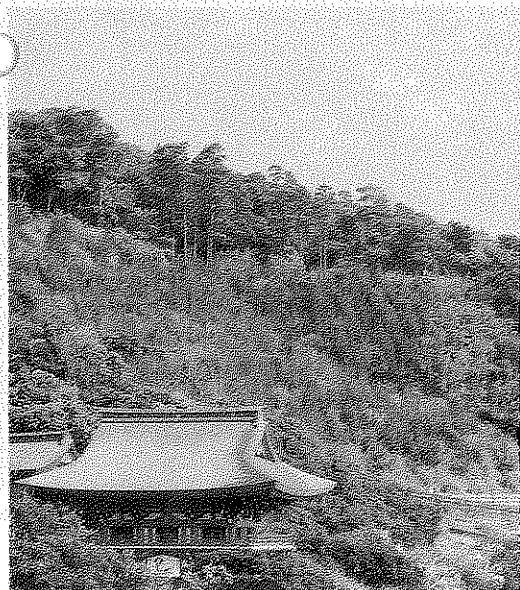
春夏秋冬、刻一刻と変化し、荒磯に打ちつける波涛を眺め緑滴る夏山、奇岩の自然の妙を見るに、まさにそこは「神奈備の山」が広がっています。

霊窟には、「朱塗」の御社殿に、太古より御祭神は

神ながら、神鎮ります。どうぞお揃いでお参り下さい。



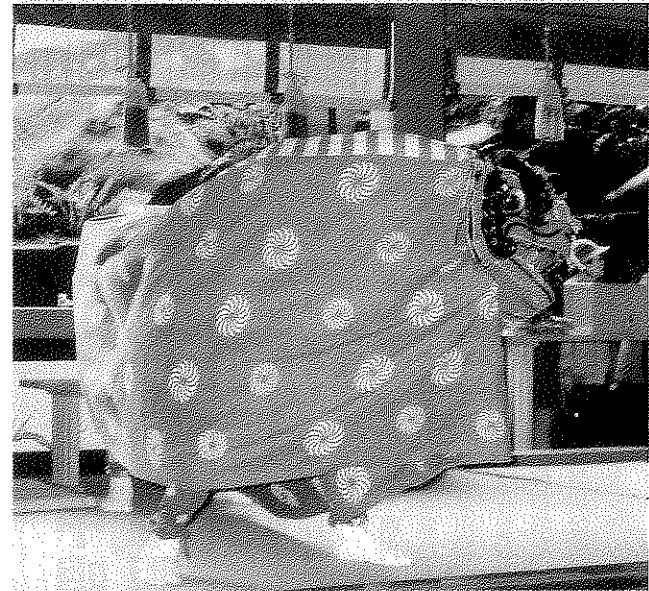
復旧工事



現在



田植は、注連縄の張られた約一反の御神田に、編み



鵜 戸 さん 獅子 舞



シャンシャン馬道中唄



豊栄の舞

御田植祭 齋行

三月十六日、午前十時三十分より大浦地区の御神田において、御田植祭が斎行された。

当日は雨が降ったり止んだりの天気ではあったが、多数の参列を賜った。祭典には、田の神の御降臨を仰ぎ齋主が祝詞を奏上。稲の順調な生育を祈願した。

がさ、かすりに赤いたすき姿の早乙女や小学生、地元住民が入り、苗をていねいに植えていった。この祭典は、古来より受け継がれてきた日本文化の基である稲作を、後世に伝えていくべき大事な行事である。今後は、御神田月次祭が七月の抜穂祭まで毎月齋行され、稲の生長を祈願していく。

春の緑日大祭 齋行

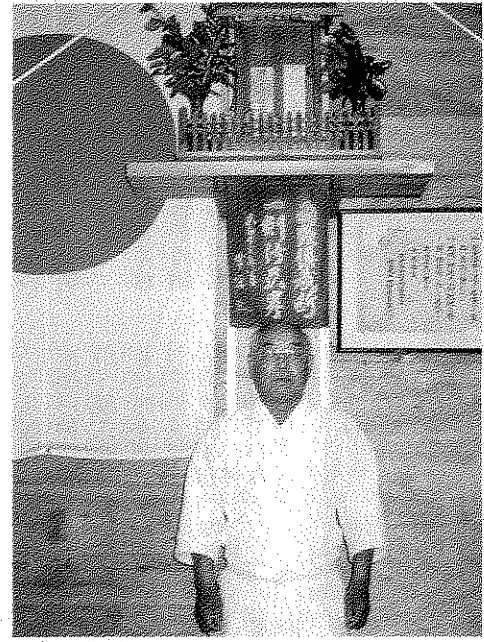
天候に恵まれた三月二十二・二十三日の両日、緑日大祭が斎行された。この祭典は、古来旧暦三月の祭礼日に祈願する参拝者で賑わったと伝えられている。

二十一日は、午前十時三十分より「春の緑日大祭」が斎行され、責任役員をはじめ多数の参列を賜った。奉祝行事として、日本民

謡協会日南支部会員による「シャンシャン馬道中唄」、当神宮職員による「豊栄の舞」、「鵜戸さん獅子舞」、舞楽「納曽利」が御本殿にて奉納された。参列の人や、参拝に訪れた多くの観光客などは、貴重な舞が見られたり歌が聞けたことをよるこんでいた。

剣法発祥鵜戸山頭彰剣道大会を振り返り

宮崎県剣道連盟常任理事
振徳館道場館長・教士七段



中島 俊一

終戦後いろいろな問題を抱えながらも、宮崎県警察学校の剣道師範に松野先生が就任され、昭和二十五年に学校に有段者が相集い宮崎県剣道連盟の結成準備会が開催されました。その中で日南から「日南では陰流発祥の地、鵜戸神宮の境内で昭和初期より県下中等学校剣道大会を行っている

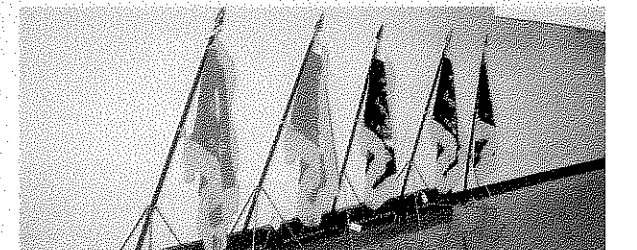
が、これを機会に剣道連盟主管で実施していただきたい」と云う要望がだされ、その結果昭和二十七年二月一日に第一回大会が開催されました。昭和三十三年の第五回大会以降は名称を「剣法発祥鵜戸山頭彰剣道大会」として正式に発足し、平成十五年二月二日には、めでたく第五十回大会を開

催することが出来ました。振り返ってみますと、第一回大会より五年連続日南の選手(私と谷・外山・福田・伊豆元・谷口・房安各氏で全員五段)が優勝したのでオール五段を廃止し、翌年大会から初段・二段・三段・四段・五段の各段一名ずつの編成にかえられました。



第50回剣法発祥鵜戸山頭彰剣道大会

南市体育協会、剣道連盟日南支部の皆様感謝の意をこめて益々の「剣法発祥鵜戸山頭彰剣道大会」の発展をお祈り申し上げます。又、今年は全日本剣道連盟創立五十周年と云う年とかがさなりましたので、宮崎県剣道連盟より鵜戸神宮と日南市に感謝の意を表するため、全日本剣道連盟にお願い申し上げたところ、鵜戸神宮宮司・杉田秀清氏と日南市長・北川昌典氏に感謝状の贈呈がなされました。



新しい優勝旗



桜の苗木植樹

二月十六日、責任役員と氏子総代により、桜の苗木百本が植樹された。

この苗木は財団法人日本花の会が、創立四十周年記念「後世に残る桜の名所

づくりモデル事業」として提供されたものである。

品種は、鶺戸の気候にあっているとされる神代曙（シンダイアケボノ）が選ばれた。三年後ぐらいから淡紅色の花をつけ始める。



いさみ太鼓奉納

そろいの鉢巻、はっぴ姿の子供たち五十名が、健やかな成長を祈り、五月五日の「こどもの日」に「いさみ太鼓」を御本殿にて奉納した。

この後、儀式殿にて雅楽演奏会が行われ、子供たちは興味深く耳を傾けていた。

雅楽器を吹く体験コーナーには多数の参加があり、関心を示していた。

平成十五年未年鶺戸神宮御神事一覽表(七月〜十二月)

日	時間	祭 祀	祭 名
7月 1日	10時	月	皇 子 神 社 例 祭
7月 3日	10時	一之卯	緑 日 次 祭
7月 5日	10時	一之卯	緑 日 次 祭
7月 10日	10時	八	披 日 次 祭
7月 11日	10時	九	縁 日 次 祭
7月 13日	10時	末 社	福 智 神 社 例 祭
7月 17日	10時	十	龍 山 神 社 通 拜 式
7月 18日	10時	神 社	神 嘗 祭 当 日 祭
7月 20日	10時	一之卯	敬 老 祭
7月 23日	9時	秋	秋 分 祭
7月 27日	10時	十	明 治 大 祭
7月 28日	10時	中 祭	秋 の 縁 日 大 祭
7月 31日	10時	2・3日	月 次 祭
8月 6日	10時	立 冬	平 成 遷 座 記 念 祭
8月 8日	10時	立 冬	神 御 衣 祭
8月 15日	9時	七	神 五 三 祭
8月 17日	10時	儀 式 殿 鎮 座 記 念 祭	儀 式 殿 鎮 座 記 念 祭
8月 23日	10時	大 祭	新 嘗 祭 (五穀豊穡感謝祭)
8月 24日	10時	水 神	水 神 祭
8月 31日	10時	十	月 次 祭
9月 1日	10時	未 社	火 産 靈 神 社 例 祭
9月 3日	10時	一之卯	縁 日 次 祭
9月 8日	10時	未 社	門 守 祭
9月 11日	10時	中 祭	天 長 祭
9月 15日	10時	未 社	煤 払 祭
9月 27日	10時	大 式	大 祓 祭
9月 31日	15時	大 式	除 夜 祭



当神宮の特殊神事とされる神仏合同の別当宮司先賢慰霊祭が、五月十六日午前十一時より、鶺戸山別当墓地において、しめやかに斎行された。

祭典には、歴代別当宮司遺族をはじめ多数の参列を賜り、宮司祝詞奏上の後、潮満寺住職・伊勢木俊真氏、願成就寺住職・川崎光俊氏、玉染寺住職・甲斐裕隆氏により経が読まれ、御詠歌が流れた。



別当宮司先賢慰霊祭斎行



「鶺戸さん参りは春三月よ…」の歌い出しが始まるシャンシャン馬道中唄。

この第十七回全国大会決勝大会が三月二十三日、鶺戸神宮儀式殿にて開催され百六十四名が出場。各部門の優勝者の中から、グランドチャンピオンが選ばれた。

会場は足の踏み場もない程、民謡愛好家で埋まり熱

シャンシャン馬道中唄全国大会開催

シャンシャン馬道中再現

「鶺戸さん参りは春三月よ…」の歌い出しで始まるシャンシャン馬道中唄。この第十七回全国大会決勝大会が三月二十三日、鶺戸神宮儀式殿にて開催され百六十四名が出場。各部門の優勝者の中から、グランドチャンピオンが選ばれた。

会場は足の踏み場もない程、民謡愛好家で埋まり熱気に包まれていた。出場者は、太鼓や三味線などに合わせ、自慢の声を披露した。

今大会には、県内はもとより静岡、熊本県などから四百五十七名が出場。二十二日に日南文化センターにて予選会が行われた。

又、決勝当日は当地方の風習であったシャンシャン馬道中の鶺戸さん参りが再現された。

今年には県内外から十二組の応募があり、三組の新婦が選ばれ、本殿にて正式参拝の後、花嫁が乗った馬の手綱を花婿が引いて境内を一周した。

参拝者は、新婦さんの昔さながらの出で立ちに足を止め、記念撮影をしたり、大きな拍手を送り祝福していた。



杉田宮司 淨階並びに 神職身分一級昇進

三月一日付にて、杉田秀清宮司は、淨階並びに神職身分一級に昇進され、三月十日神社本庁にて伝達式が行われ、工藤伊豆総長より辞令を受けられた。

これにともない、宮崎県神社庁庁長・黒岩龍彦氏と当神宮責任役員・田中静氏が発起人となり、五月十三日に「杉田秀清宮司淨階並びに神職身分一級昇進を祝う会」が、日南第一ホテルを会場にして催された。

当日は、神社本庁理事・草場昭司氏、宮崎県神社庁庁長・黒岩龍彦氏をはじめ県内の多数の神社関係者、日南市長・北川昌典氏、日南市議会議長・井戸川宏氏などが祝う会に参集された。

出席者からは、御祝辞とともに激励や今後一層の神明奉仕に努められるよう、又、健康に留意されるようにとのお言葉を賜った。
これに対して、杉田宮司

が今後も御祭神の御加護を仰ぎ、御社頭の御隆昌と神明奉仕に力を尽くす覚悟をひれきし、今後とも皆様の御指導御鞭撻を頂きますようにとお礼を申し述べた。
現在、杉田宮司は宮崎県神社庁副庁長、神道政治連盟宮崎県副本部長、県神社庁祭式講師などの要職に就かれている。



杉田宮司 謝辞

境内の植物

カラタネオカタマ

江戸時代中期に渡来。常緑低木で高さ三〜五mになる。葉は肉があつく、互生し長さ四〜八cm。四〜五月、径3cmほどの花が開く。黄白色で縁は紅色を帯びている。花にバナナに似たよい香りがあり、よくバナナツリーの名で売られている。秋に果実が熟すると赤い種ができる。



辞令

鵜戸神宮宮司 杉田秀清
淨階を授く

神職身分一級とする
神社本庁 (三月一日)

鵜戸神宮禰宜 三輪吉治
願いに依り本職を免ずる
神社本庁 (四月一日)

巫子 米衛里佳
願いによりその職を解く
(五月三十一日)

新職員紹介

巫子 外山直子
生年月日

昭和五十八年六月二十四日
最終学歴

福島高等学校
趣味 テニス
常の信条 前向き



編集後記

社報第五十六号をお届け致します。
本号発行に際し、宮崎県剣道連盟常任理事・中島俊一様には、御多忙中にも拘りませず玉稿を賜り、誠に有難うございました。紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。